

4年1組

## 石を見つめて ～石の世界の広がりとお石の可能性～



### 石の世界は広いね

四月当初。渋谷副校長先生が、石のお話をしてくださいました。すると、休み時間になると石集めをする子が続々と出てきました。「先生、いい場所見つけたから一緒に行こう！」と休み時間に誘ってくれる子も。見つけた石を副校長先生に見せにいく子たちもたくさんいます。

そんな子どもたちと、石を見つめる時間をとりました。時間になると外に駆け出していく子どもたち。石にはたくさんの魅力がつまっているんだな、と子どもたちの姿を見て感じました。外に出て子どもたちと学校の敷地内を歩いてみると、たくさんの石を見つけました。子どもたちはどんどん石を見つけて私に見せてくれました。赤い石、緑の石、青い石、変わった形の石など、その色や形を楽しんでいるようでした。「石ってどうしてこんなにたくさんあるのかな？」と子どもたちに聞いてみると、「隕石が落ちてきて、ドカーンと砕けたものが石になったんじゃないかな！」「誰かが作っているのかも！」「どこかから飛んできたんじゃない？」「マグマが噴火して出てきたとか！」と、いろいろな説が出てきました。普段は全く気にせず通り過ぎてしまう足元の石ですが、かがんで視線を落としてみると面白い発見がたくさんあることを子どもたちから教わりました。しばらくすると、石を砕く子も出てきました。すると、砕いた石の中は表面とはまた違ったものが見えてきました。中から出てきたキラキラと光るものに興奮する子どもたち。一体それは何なのか私には分かりませんでした。石の図鑑を片手に持ちながら調査をしているAくんは、「これは〇〇だよ！」と図鑑と比べながら説明をしてくれました。中からは縞模様の層が出てくる石も。子どもたちは、なんでこんな風になっているんだろうと不思議そうに見つめていました。石を探しながら、その不思議さをみんなで話しているとBくんが「石の世界は広いねえ」と笑顔で言いました。石を探しながら、いろいろと試し、石に関わっていくと、分からないことや不思議なことなど、見つめていきたいことがたくさん出てきます。またそこから石の世界が広がっていくような気がしています。



### 普段ずっと見ていた石なんだけど

「先生、早く総合の授業やろう！」子どもたちからそんな声がたくさん聞こえてきます。この日は、授業の初めにいくつか個人的に購入した石に関する本を紹介しました。その中の一つに「石ころ博士図鑑」という本があったのですが、それを紹介すると、「石ころじゃないでしょ！！」と、少し怒ったような声が聞こえてきました。それがどういうことか分からず、「“石ころじゃない”ってどういうこと？」と尋ねると、「石“ころ”はダメでしょ！！石“様”でしょ！！」という言葉が返ってきました。それに続けて「そうだ！そうだ！」という声が聞こえてきました。そんな声を聞き、子どもたちにとっての石は、石“様”というくらい大切なものになっているんだなと感じました。その後、一人ひとりに、石の標本ケースを渡すと、一斉に外へ駆け出していく子どもたち。子どもたちといっしょに外へ行くと、箱に色分けをして石をいれたり、お気に入りの石を見つけていれたりしている姿がありました。「先生、ふせんちょうだい。石に名前つけるの。」という子もいました。



石を見つめながら会話している子どもたちの声を聞いていると、こんな声も聞こえてきました。「きれいな石はさ、今までも見ることがあったけど、何でもないように見える石もさ、こうやって見つめると、今までは通り過ぎていた石にも発見がいっぱいあって面白いね。」「うん、すごいよね。」

色で石を分ける子、透き通った石を見つける子、山や川に行ってみつけてみたいと願う子。ここからまた、どんな石の世界の広がりが出てくるのか楽しみです。



### ～日記より～

僕は今日先生にもらった石のケース、瓶が嬉しかったです。早速取った石を何個か入れました。ケースに入れておけば、なくすことがないので、嬉しいです。前はあまり石に興味がなかったので、落ちているものにはしか見えなかったけど、今はいっぱい落ちている大事なものです。

今日は2時間目と2時間目休みに、石探しをしました。光を当てると透けるのがありました。それは、水晶かな??と思いました。それで調べてみました。私はなんで透けているのかなと思いました。私は何かが隠されているのかなと思いました。次の時間は透き通る石を探したいと思います。

今日は、総合の時間にいっぱい石を取りました。

小山先生からもらった、白いケースに石を色ごとに分けると、茶色が多かったです。少なかった色の石は、緑でした。2個しかなかったので、なるべく多く見つけたかったけど、緑色の石はなかなか見つかりませんでした。でも1個だけ見つかったので、合計3個になりました。次の総合の時間では、まだ取った事のない色の石を見つけたいです。

## 磨けば光る

今、子どもたちと石磨きをしています。この日、Sくんは、「この石さ、外で割ってみただけど、太陽の光を当てたらものすごく光るんだよ」と、興奮しながら語っていました。「先生もちょっと見てよ」と言うSくん。一緒にベランダに行き、割った石の断面を光に当ててみました。すると、Sくんは「めっちゃ光ってるでしょ。きれい。太陽に当てると姿が変わるね」と笑顔で言い、日陰と日向での石の見え方を確かめ、角度を何度も変えながら、しばらく石を見つめていました。「これさ、磨いたやつ光に当てたら、反射してもっと光るようになるんじゃない」そう言うと、教室に入り、割った石の片方をダイヤモンドやすりで削り始めました。次の日、「2時間磨いたらこんなにきれいになったよ」と言って、磨いた石を見せてくれました。石はカットされた宝石のように面がとられ、それぞれの面が鏡面になっていました。その石を再び太陽に当ててみると、太陽の光が反射し、動かすたびにキラキラと輝く石を見て、「やっぱり磨けば光るね」と嬉しそうにつぶやきました。「まだ、もうちょっときれいになりそうだな」と言って教室に戻ると、またその石を磨き始めたSくん。

磨けば磨くほどその姿を変えていく石の面白さを感じ、石磨きに没頭していく子どもたち。石にはどんな可能性があるのか。夏休み明けも子どもたちと一緒に石の世界を見つめていきたいと思います。

